「何のため」議論なくデジタル化進む日本

ショック・ドクトリンに見る保険証廃止問題「立ち止まって」

interview

ジャーナリストの堤未果氏は、9・11同時多発テロ事件（2001年）を、現場となったワールドトレードセンターに隣接するビルで目の当たりにした。テロ発生時に高層階から階段で駆け下り、命からがら生き延びた堤氏の経験は想像を絶するものがある。しかし、本当の恐怖はテロ当日ではなかったと回想する。それは、自由の国・アメリカの雰囲気が徐々に変わりゆく様子と、そこにある「ショック・ドクトリン」という政策導入の手法―。本当の“恐怖”はここから始まった。

5月31日に発売された書籍『堤未果のショック・ドクトリン 政府のやりたい放題から身を守る方法』（幻冬舎新書）では、今、日本国内でも起こっているショック・ドクトリンについて解説している。今回はショック・ドクトリンという視点から健康保険証廃止の問題を中心に語っていただいた。

ジャーナリスト　**堤 未果**

Mika Tsutsumi

プロフィール　つつみ・みか／ニューヨーク州立大学国際関係論学科卒業、ニューヨーク市立大学大学院国際関係論学科卒業。国連、アムネスティインターナショナルNY支局員、米国野村証券を経て現職。米国を中心に国内外の取材、講演、メディア出演を続ける。多くの著書は海外でも翻訳されている。「報道が教えてくれないアメリカ弱者革命」で日本ジャーナリスト会議黒田清新人賞。「ルポ・貧困大国アメリカ」（3部作）で新書大賞2009、日本エッセイストクラブ賞。「デジタルファシズム」（NHK新書）「食が壊れる」（文春新書）「堤未果のショック・ドクトリン」（幻冬舎）等多数。WEB番組「月刊アンダーワールド」キャスター。

―ショック・ドクトリンについて改めて教えてください。

これはカナダ人のジャーナリスト、ナオミ・クライン氏の造語です。「ショック」は、パンデミック、自然災害、テロや戦争など国民が恐怖や不安で頭が真っ白になるショッキングな出来事で、「ドクトリン」は法律や政策です。ショック・ドクトリンは、普段なら導入できないものを、混乱に乗じて急速に取り入れて社会を都合よく変えてしまう、日本語で言うと「火事場泥棒」です。ショック・ドクトリンは、アメリカの9・11、スリランカの自然災害、東日本大震災の被災地でも起きています。

―コロナ禍の日本でもショック・ドクトリンが起きていたのでしょうか。

21年5月。政府は12日に終わるはずだった4都道府県の緊急事態宣言を月末まで延長し、同日「デジタル関連法案」を可決しました。緊急事態下で63本もの法案を束ねた上にわずか27時間の審議で一気に採決させるという、まさにショック・ドクトリンの手法を使ったこの法案には、「個人情報保護規制」を緩める項目が入っていたのです。追い打ちをかけるように、22年6月には医療機関へのオンライン資格確認システムの導入義務化を閣議決定し、「できないなら医療機関の資格停止」とまでちらつかせました。

一方、国民には「早くしないとポイント2万円分もらえませんよ」と焦らせ、マイナカード取得を促しました。それでも普及しない状況に、今度は「紙の健康保険証を廃止します」という話がでてきました。健康保険証がなくなって病院に行けなくなると思うと、国民は急いでマイナカードを作りますよね。これも「恐怖」を煽り行動させるショック・ドクトリンです。認知症や寝たきりの方など、マイナカードを自分で取得できないケースもあり、誰もがいつでもどこでも治療を受けられるという国民皆保険制度が崩れていきます。それは憲法第25条が保障する生存権に反するものです。

アメリカで横行する「なりすまし」

―さまざまなシステムがデジタル化する現代で、大切なことは。

社会行政をデジタル化する時、一番の鉄則はリスク分散（データの分散集積）です。多くの個人情報がひも付いているほどに、ハッキングや漏洩、犯罪が起きた時に被害が大きくなるからです。アメリカや韓国は、ひも付ける情報を増やして失敗しました。アメリカの社会保障番号も当初は「社会保障」の目的だけに使われるはずだったのが、番号をひも付けて利用する行政機関、業界が増えていきました。ゴミ箱を漁って番号を盗む、カード決済の際に抜き取られるなどのケースも絶えません。他人になりすまして仕事を探すことや、番号を悪用した身分の売り買いも行われているのです。

一方、デジタル化に成功したのは台湾で、注目すべきはお年寄りや、一番システムを使いづらい人に合わせた制度設計をしていることです。感心したのは、コロナ禍の緊急事態においても現行の憲法と法律の中で対応し、それらを飛び越えない方法を選んだことです。スマホを持ってない人に対応できる体制を敷くなど、アナログとデジタルの両方を残している。また、デジタル化をする時は性悪説で制度設計するのが基本です。権力者が悪いことをする前提でシステムを作り、技術的に悪事をブロックすることでリスク管理するものです。

―ショック・ドクトリンを見分けるにはどうしたら良いですか。

ショック・ドクトリンを見分けるポイントは2つ。1つ目は、メリットばかり強調することです。例えばマイナカードの「住民票をコンビニで発行できる」「2万円分ポイントがもらえる」など。2つ目はとにかく急がせること。国民に「早くしないと健康保険証がなくなるぞ」、医療機関に「早くしないと資格剥奪するよ」と、急かし、その隙にマイナ保険証普及を強行するのです。

ショック・ドクトリンを前に2つの選択肢「先生から発信を」

―日本でそのような方向に進まないのはなぜでしょうか。

1つは「何のためにするのか」という議論がないままに、デジタル化が目的化してしまっていることです。海外に追いつきたいという焦りと、デジタル、広告業界などからの企業群献金や強い要望があり、システム導入ばかりが先行している、いつもの状態。2つ目は、ゆくゆくは日本全国に広げることを目指している、街中をネットでつなぐ「スーパーシティ」の準備のためです。20年5月に可決したスーパーシティ法を覚えていますか？この法律には、デジタル化した個人情報を誰にどこまで提供するかを、首長と企業で決められるという危険な項目が入っています。マイナカードに紐づけられる多くの情報、特に巨額の利益を生み出す医療情報を、スーパーシティを通して手にすることを、国内外の企業群が首を長くして待っていることに注意しなければなりません。

―ショック・ドクトリンを前に私たちはどうすれば良いのでしょうか。

ショック・ドクトリンは〝スピード勝負〟。だから導入までの時間をできるだけ引き延ばせば止められます。連日マイナ保険証のトラブル報道が流れている今、政府は対応に追われ、導入が怪しくなってきていますよね？大切なことは、いったん立ち止まることなのです。紙の健康保険証廃止まであと1年、その間に資格確認書をもらって毎年更新すれば、さらに引き延ばせます。そうやって政府が狭めようとする選択肢を、私たちの手で増やしていきましょう。資格確認書は初診18円、再診6円、窓口で余計にかかるけれど、それは、トラブルだらけで災害時も使えないマイナ保険証から、個人情報を守る「セキュリティ保護費」と考えて。この「資格確認書」はとても大事な手段なのですが、残念ながらまだ大半の国民はご存知ないので、ぜひ先生たちから患者さんに知らせてあげてほしいです。クリニックに「資格確認書」という選択肢がありますよという張り紙があるだけで、多くの人が救われ、政府の暴走を止める力になるでしょう。患者さんにとって、自分の身体を預ける先生の言葉はとても重いからです。

マイナカードを返却するという選択肢もあります。役所で申請すれば10分ほどで終わるでしょう。その際、大事なのは、カード返却前にマイナポータルにログインして履歴を消去、公金受取口座とのひも付けを解消することです。例えば紙の健康保険証廃止ギリギリまで情勢がどうなるか様子を見て、それから考えても遅くありません。国会が閉会したのでマイナカードの不祥事はさらにたくさん報道されてくるでしょう。不安や心配は地元の役所や首長さんにどんどん伝えてください。すでに岡山県や神奈川県では、市や首長の判断で政府方針を撤回する動きが始まっています。

ショック・ドクトリンを打破したケースも

―実際に政府からのショック・ドクトリンを退けた事例はありますか。

かつてタイが大津波で壊滅状態になった時に、被災者は復興を政府に任せず主体的に取り組み、先住民を中心にした復興が進みました。先ほど少し触れた岡山県の事例では、マイナカード取得を条件とした給食費免除の方針を市が撤回しました。市長のその方針に対し、保護者が「これはおかしい」と声を上げた結果、撤回させたのです。小さな町でもできたことは、必ず私たちにもできるはずですよ。

―座右の銘を教えてください。

「正しさより優しさ」です。権力の監視はジャーナリストの責務ですが、正義を重視し過ぎれば相手を裁くことで本末転倒になるからです。今は皆が自分の正しさを主張し、社会がどんどん分断されていますよね。私は常に、正しさより優しさを忘れずにいたいです。

―ところで、歯科にまつわる思い出を聞かせてください。

私は、病院はほとんど行かないのですが、実は甘いもの大好きで歯医者さんにはよくお世話になっています。歯科治療費が高いアメリカでは、口の中を綺麗にしておけば免疫が上がり、病気になりにくいことがよく知られています。貧困層の子どもたちは、みんな歯がボロボロで、就職試験も歯で落とされることもあるので、ますます自己肯定感が低くなってしまう。まさに歯が人生を左右するのです。歯科という分野は社会の色々な縮図になっている奥深い分野、それだけ大事なお仕事をされている先生たちには、感謝しかありません。

―最後に5月31日に発売された新刊についてお聞かせください。

ショック・ドクトリンは今、日本を含め世界同時に仕掛けられており、医療分野は最大ターゲットの一つ。それだけ価値ある分野であり、「国民皆保険制度」は今もなお世界が高く評価する宝です。ショックは政府と企業だけのものでなく、私たち国民にとっても、覚醒し宝物に気づくチャンス。具体的な対策をこの本にたくさん書いたので、ぜひ読んでみてください。

―ありがとうございました。

【堤未果さん書籍プレゼント】応募詳細は7面をご覧ください